

一期一会 これからも出逢いを大切にしながら、少しずつ少しずつ歩んでいきたい



あやの
柴田綾乃さん(大東町・61歳)

「ボランティアネット北明治の会」「さんかく21・安城」の設立にかかわるなど、男女共同参画推進活動者として、愛知県知事から表彰される。

筆者のつぶやき

「この音を聞くと、つらいことも嫌なこともすべて忘れてしまいます」。

今回お話を伺ったのはご自宅の茶室。シューというお湯を沸かす音が、静かに心地よく、でもどこか力強く部屋に響きます。

新しい組織の設立など精力的な活動をいくつも手がけてきました。にもかかわらず、「少しずつ」という言葉を随所に使い、やさしい表情で淡々と振り返る柴田さん。

静かだけど力強いこの音はまさに柴田さんの心そのものだと思えてなりません。

今盛んに叫ばれている男女共同参画。この問題に私が初めて携わったのは、平成元年に市の婦人会長になり、その研修として「地域婦人問題開発研究会」に参加した時です。そこから、少しずつ勉強を始めたんですけど、最初はいぶん違和感がありました。もともと専業主婦として過ごしてきたため、「女性」が、「女性」と力を入れて語ることが好きじゃなかったんです。

しかし、時代の変化とともに私自身も意識が少しずつ変わっていき、女性の地位向上の必要性を強く感じるようになりました。

その後、「やはぎ会」「国際交流はなの会」に入会し、平成10年に婦人会にかわる組織として「ボランティアネット北明治の会」を設立しました。これは、地域福祉活動を中心に高齢者や知的障害者施設の支援から出発したグループです。今までと違うところは男性が参加していただいているところ。男女共同参画も含め、こうした活動にはやはり男性の協力が必要です。現在も時代の動きに合わせて、子育て支援、防犯パトロールなどを行っています。

また、「さんかく21・安城」の設立にもかかわり平成15年度から2年間会長も務めさせていただきました。はや6年になりますが、安城市の男女共同参画活動も若い人を中心にすいぶん力をつけてきたと思います。こうした活動を通じて、自分たちのまちが素敵だと誰もが思えるようになればいいですね。

振り返ってみてつくづく感じることは、本当に多くの皆さんの協力によってやってこれたということ。新しく組織を立ち上げるときは、それなりの苦労が伴いますが、いつも皆さんに助けられてここまでできました。今回の受賞も決して一人の力ではありません。

大好きな言葉は「一期一会」。これからも少しずつ歩みながら、出逢い、めぐり逢いを大切にしていきたいと思っています。